

パソコン教室の窓から(79)

NPO 法人コミュニティ NET ひたち(Cnet)久保裕

## パソコン・オタクが家事を手伝う

2010 年のころ「イクメン」の登場から、夫の育児と家事への参加に世間の注目が高まってきた。2020 年には現役閣僚の小泉新次郎環境大臣が育児休業を取るなど、男性の育児休業取得率は高まっていたが、それでも 25% 台だった。定年退職後の夫が家事に参加しても、女性の立場で見るとワンオペ感が強く、「ちょっと手伝ってもらったくらい」では、なかなか負担は消えないようだ。それどころか「喜んでもらえると思ってやってもダメ出しを食らった」という悲惨な話もある。それがトラウマになって家事に手を出せないと、うつになる人もいる。

企業城下町の日立市では、日本の高度成長を支え、専業主婦と企業戦士という役割分担の家庭が多数を占めていた。人生 100 年の時代を迎えて、ある日突然お一人様になれば、家事の全般が、企業戦士にかかってくることになる。単身赴任で一人暮らしの経験があるといっても、自分一人で一軒家を維持していくには覚悟がいる。そのところをどう生きていくか、生きていけるか、これが後生の一大事である。

私が、「私の家は平屋の一軒家だし、良寛の五合庵\*1 暮らしを夢見ているよ」などというと、「あなたは極楽トンボみたいなこと言って」と、家内に笑われている。

最期まで健康寿命を維持できるかどうか、「ピンピンコロリ」とうまくいくとは限らない。ピンピンが健康状態で、その後コロリとってからでも寿命を保っている人が多い。「社会的な介護サポート」を積極的に受け入れて、「フニャフニャスルリ」と生活する長生きのし方もあるようだ。若いころは「ピンピンコロリ」を目指し、それが難しくなったら「フニャフニャスルリ」で人生 100 年を乗り越える生き方がある、という説\*2 を称える人がいる。

さて本題の「パソコン・オタクが家事を手伝う」について、パソコン・オタクは私自身のことだ。現役時代はコンピュータ・システムの開発の仕事をしてきて、定年退職後は現在の NPO 法人コミュニティ NET ひたちでパソコン教室を開いている。そういうことで相変わらず家事のことは妻に任せ放しなのだ。そろそろコロリと行きそうな年齢になり、スルリと行くにしても、家事がしっかり出来なければならないと真面目に考えている。

家事の手伝いは、まず妻のことをよく聞くことで、そして、「手伝う」ことから「きちんと分担を決めてする事」として、責任をもって家事をシェアしてルーチン化する事ができなければ本物ではない。妻に「手伝う」というと叱られている。



\*1 右の写真は、2007 年夏(66 歳)に、新潟県国上山の良寛が住んでいた五合庵を訪ねたとき。

\*2 『100 歳は世界をどうみているか』権藤恭之著 ポプラ新書

私の HP 樹心流情の「都会の山小屋」

下記の URL を参照ください。

[https://jyushin-rujiyo.com/tokaino\\_yamagoya/tokaino\\_yamagoya.html](https://jyushin-rujiyo.com/tokaino_yamagoya/tokaino_yamagoya.html)